

水

船一六號

明治四十五年三月廿九日

第三艦隊司令大宮彰次郎



供時



海軍大臣男爵齋藤實政

艦隊本部

軍務局

軍令部

第三艦隊臨閣岸報告

一船體及機装局員  
 三月廿五日 閣岸ノ夕メ前至室下右舷艇底ニ裂孔一  
 前部司令塔前方ヨリ如ヒツト直下ニ至ル左舷倒艇  
 底裂孔五、其他リハツトノ弛緩数ヶ所上甲板飯田  
 四部一個所船止器具鎖鎖ニ破損ヲ生シタルヲ修  
 理ヲ要ス

機務交番 四月一日

0631

「兵装」

(2) 欄岸ノ多兵質室、前走室全部浸水兵質室全部  
機装修理ヲ要ス  
此他波浪ノ爲メ支柱網及其他ノ機装ノ修理ヲ要ス

「機關」

欄岸引卸際前部浮泛力増ス爲メ探照燈、山  
内三所砲石ヲ移動シタルニ付運搬取附ヲ要ス  
探照燈白熱燈電路破損ニ付修理ヲ要ス  
六所砲用回螺器外數處ニ失ニ付新設ヲ要ス

前在ハ一時海水ニ洗ハレタルモ洗滌ノ上使用出来得ル見  
込后モ異状ナシ目下使用中  
主機及補機亦異状ナシ要スルニ獨力ニテ回航出来  
得ルモノト認ム

第二艦隊臨時現狀報告

一、船體及機装

三月二十五日、妻良港ニ於テ風浪ニ遭遇セル際、西舷錨鎖切  
断、上橋、エニール知ビット支台等破損、小修理ヲ要ス

第二艦隊臨時現狀報告

一、船體及機装

三月二十五日、妻良港ニ於テ風浪ニ遭遇セル際、左舷錨鎖切  
断、修理ヲ要ス

右報告ス

(終)

至急

横領機密一八四號一九

明治四十二年三月十九日

横濱鎮守府司令長官代理

海軍大臣事務官

海軍大臣事務官 實殿

第二艦隊司令部 難

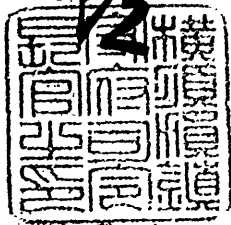
第二艦隊司令部 難及其後、概況

二回及報告、墨

南面、電報、報告、

通、五、

各班

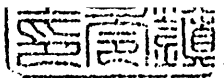


四 8-31

0634

4-2-5

軍令部	水路部	臨時建部	教育本部	艦政本部	司法局	經理局	醫務局	人事局	軍務	大臣官	部局
-----	-----	------	------	------	-----	-----	-----	-----	----	-----	----



四 鑑

8-31

0634

4-2-3

三 鑑

部局名	大臣官房	軍務局	人事局	醫務局	経理局	司法局	艦政本部	教育本部	臨時建築部	水路部	軍令部
接受月日		三 年 一 月 一 日				四 年 六 月	三 年 一 月 一 日				三 年 一 月 一 日
發送月日	三 年 一 月 一 日	三 年 一 月 一 日				四 年 六 月					三 年 一 月 一 日

赤十字社  
支店長

0635

遭難地より帰還したる初霜駆逐艦長及鴻  
 水雷艦長報告に依り、應名修理四五  
 日間に完結せし派遣技師見込に  
 又艦長修理漏上独力にて回航し得へキ  
 旨申接り、タリト、事修何し今明ら申  
 十分見込を相互に於て確定意見ヲ申致  
 スコト、信ら接り候  
 別紙水雷艦鴻遭難報告一通昨夕遭難  
 地より帰還、水雷艦鴻艦長持来裡未致  
 右為進達不  
 追テ遭難次第三溪本口長兼東良子浦  
 村民、其ノ号シタル同族并テ援助非常

0636

十九号ニ有之候所ニ付不取致謝状ヲ奉  
セシメ置候

（印）

海軍

0637

至急

寫

二艇掃部三三号

明治三十二年三月廿六日

於伊豆島海

第一艇隊司令 大宮 鈞 郎

横濱鎮守府司令長官 大塚 隆 郎

海軍少将 北 吉 賀 竹 郎 殿

水雷艇 鷗 濤 難 報告書 提出件

一水雷艇 鷗 濤 難 報告書

右提出件

(別紙一通添付)

終

海

軍



二艇機密第二三號ノ二

### 水雷艇鷗遭難報告

#### 一 出勤ノ目的

本隊ニ去ル三月二十日ヨリ三日間、豫定ヲ以テ夜中航行霧霧  
 中運動伊豆岬岸水踏探究其他諸訓練施行為ノ  
 今日午後二時三十分長浦出港八時三十分下田着翌二十  
 三日午前土時出港々外ヨリ霧霧中航行法ヲ行ヒク伊豆西  
 山岸ニ向ヒ午後二時于浦入港ス此日北東ノ風ニ乃至三ミレテ降雨  
 甚シ

#### 二 遭難前ノ状況

三月二十四日午前二時頃ヨリ突然南西ノ風起リ晴雨計以テ霧  
 ニ下降シ波浪モ亦漸ク高ク天候陰惡シ兆ヲ示シタリ以テ直  
 ニ各艇ニ双錨抛ラ令シテ警戒ヲ加ヘ曉天ニ至ヒ風波稍々

海

軍

0639

衰ヘタルレハ、午前九時出港長浦飯港、途ニ就テ、然ルニ  
 港外ノ波浪ハ極メテ大ニシテ艇操縦意ノ如クナラズ航行甚ク危  
 険ヲ感セシカハ、宇田井島ノ南端ヲ距ル南西約五哩ノ地点ヨ  
 リ再ヒ毒良子浦ニ引返シ便宜投錨シ凡波和ギ次弟出港  
 及ビ天候ニ対シ注意スヘキヲ命ジテ十時二十分船艇子浦  
 ニ双錨泊ス

此時右艇ノ艇位左ノ如シ

鷗、字島頂南西地ヲ鼻、西 $\frac{3}{4}$ 南山浦神社北

西 $\frac{1}{2}$ 左ニ五、右ニ四尋

雉、字島頂南西子浦神社北ノ西地ヲ鼻、

西 $\frac{1}{2}$ 北左ニ五、右ニ六尋

鴻、白山北東ノ東 $\frac{1}{4}$ 東子ヤ山南台西 $\frac{1}{4}$ 西日知山

南端西北西 $\frac{1}{4}$ 西左ニ五、右ニ九尋

而シテ南汽走ノ蒸汽ヲ保テリト云候而復テ清キ方日没時至  
 リ天全ク霧ルル然トモ南西ノ海風ハ依然トシテ止マズ  
 昨未明以來連吹テ南西ノ風ニ二十五ノ至リ其力五乃至六ニ  
 達シ浪内巨濤自波起リ艇作動兼セテ艇首ハ右ニ左右回集  
 内外移動ヲシテ時々推進機ヲ水面ニ表ハスニ及ビ到底出候ノ  
 見込ナキ以テ汽力ヲ保持シテ荒天俾備ヲナシテ益々艇式ヲ嚴  
 ニセリ然ルニ昨廿四午收三九四五吋ニ下降セリ晒雨計ハ正午次  
 月漸次上昇シ初メ天候稍快候ノ如キニアリ又風勢  
 尚衰ハサル以テ特ニ觸針當番ヲ配置ニテ注意船ハ接シリ  
 此ノ向些モ走輪ノ跡ヲ認メザリキ  
 三 遭難當時ノ状況  
 然ルニ午後三時觸針當番ニ倉皇ニ兩艇觸針切斷セリ上  
 部ニタルニ依リ呼吸汽機ヲ用ヒ一旦風下ニ壓セラレテ艇首

河口に向ハシント極力努メテ波浪ニ操舵力ヲ盡キ容易ニ  
 回頭セズ加之漲激ハ岸ニ向テ流レ西々相俟テ蓋ニ艇首ヲ風  
 下陸岸ニ圧流スニ依リ岸口波浪ナクナリテ極害ナク  
 砂浜ニ乗セ揚ゲント波心ニ入ルニ時已ニ避ケ全三時分迄ニ  
 艇底ハ子浦川口南東方〇七轉、海岸先礁ニ膠着  
 スルニ至リタリ遠機ナリ  
 是レヨリ先キ擱岸ノ故ヲハカラセテ知リ防水昇降口蓋ヲ閉  
 ゴ防水水葺ヲ準備セリソナリ  
 是日午後三時四分、艇鴻毛亦觸礁ヲ切斷シタリ  
 幸フニテ安全ノ位置ニ避難セリ  
**四、遭難後ノ處置**  
 先キ二本艇觸礁切斷ノコト見ヤ子浦區民ニ五ノ早鐘ヲ  
 連打シ消防組員ヲ叫合ニ救難為メ遭難地ニ本集ニタリ

ヲ以テ海陸呼應シテ艇体ヲ安全ニ保持シテ引却ノ策  
 ヲ講セントシタルモ山岸ニ打揚ゲントスル激浪ハ又艇ニ觸  
 衝シテ甲板ヲ襲ヒ作業甚カシキ困難ヲ来シ且ツ材  
 料ニ立シキガ故ニ諸率意ノ如クナラザルニミナラズ既ニ  
 艇底裂孔ヲ浸水ハ前部兵負室及ビ前室  
 室全部ニ達シ到底成効期ニ難キヲ以テ膠着部  
 後方ノ保全ト動搖ノ爲メ益々損害ヲ増スヲ防グ  
 ニ如カスト決定シ一方機関部負ヲ督シテ排水ニ従  
 率セシメ地方村民カ蒐集シタル錨纜索ヲ以テ  
 別國ノ如ク艇ヲ繫維シ尙砂俵數ヲ右舷前  
 部ニ投ジテ磨蠟ヲ防キタル排水具劫ヲ奏セズ仍  
 テ汽走ヲ消火シ危險ナル位置ヨリ人命ヲ保全  
 ニ置クヲ得策ト信ジ午後七時三十分総員ヲ後部

ニ集合シ一編ノ訓諭ヲ與ヘ海ヲ涉リテ陸上及小  
屋ニ退去ヲ命ジ陸上ヨリ艇ヲ監視シ全時ニ  
僚艇ヲ探照燈ヲ真シテ護衛ス

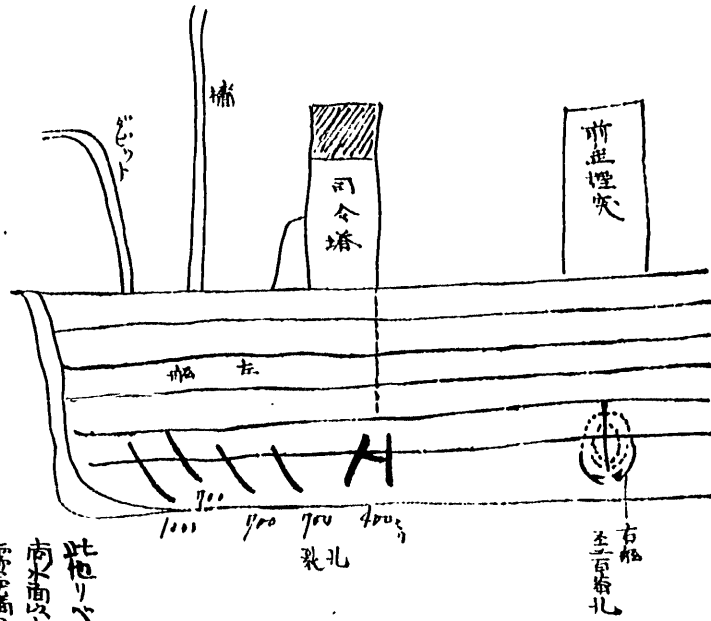
秘密圖書兵器ハ船舟ノ近接危険ニシテ陸揚  
ゲル却テ不安全ト思考シ悉皆後部士官室ニ移ス  
此日以來子浦毒良正民ノ非常ナル努力カニ向ツ  
テハ實ニ感嘆措ク能ハズ一昨ナリ

### 五損害ノ程度

損害ノ程度ヲ知ルハ處置ヲ施スノ最良手段ナルモ  
如何セン波浪大ニシテ潜水ニ由ナリ漸ク二十七日天候  
靜穩ニ成リ全時駆逐艦如月ノ齋ラシクン工廠潜  
水者ニ依テ調査シ得タルモノ左ノ如シ

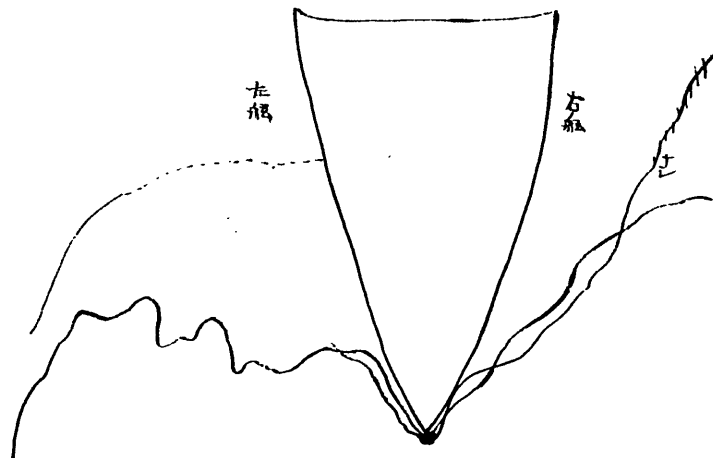
### 右報告ス

圖 面 側

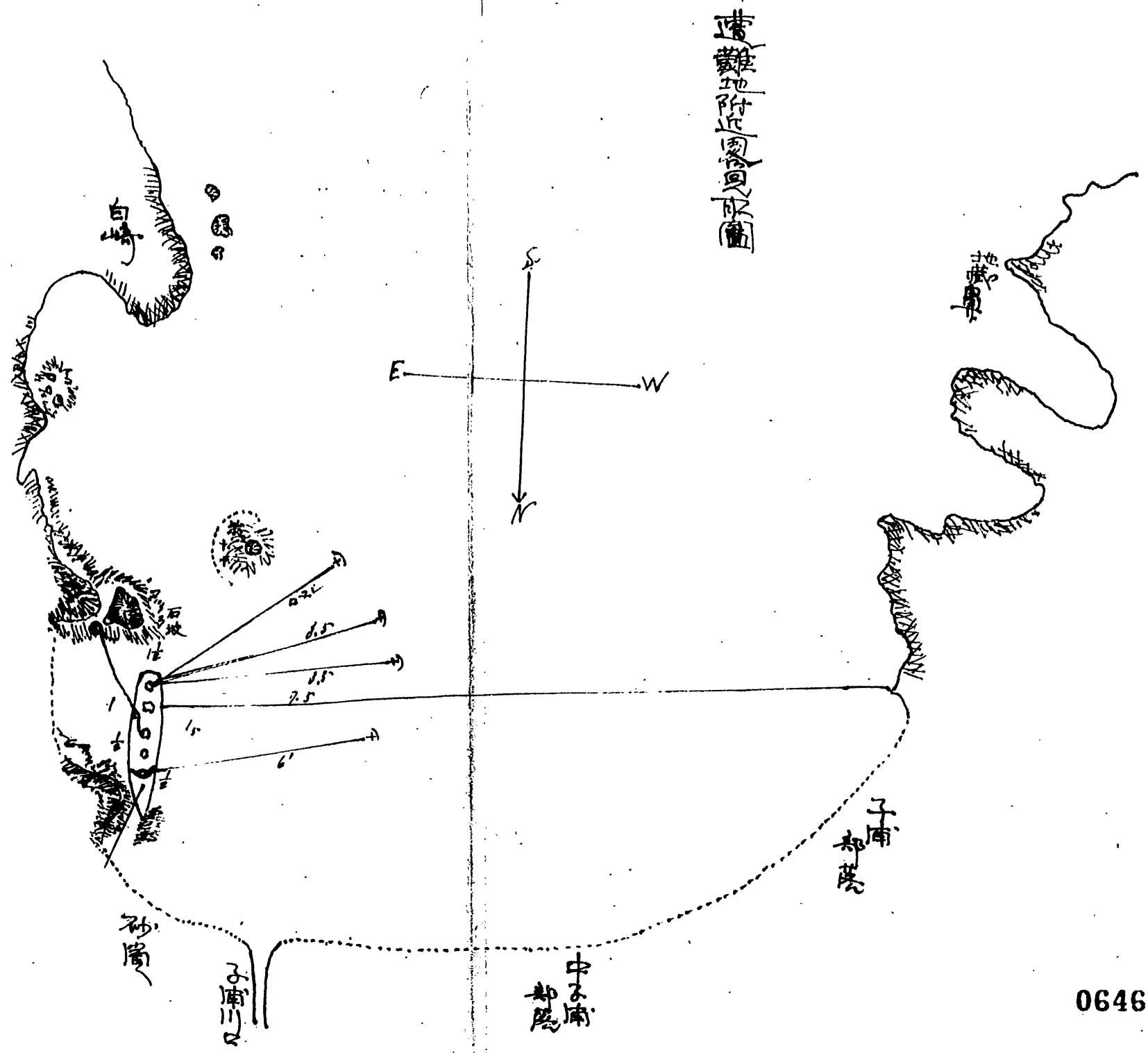


此船リハント剥服ノ部所々  
 南米面以上ニ破損ノ多支特曲損  
 需者備品等、毀損流失トモ  
 亦ナカク目下取調中

圖 面 端



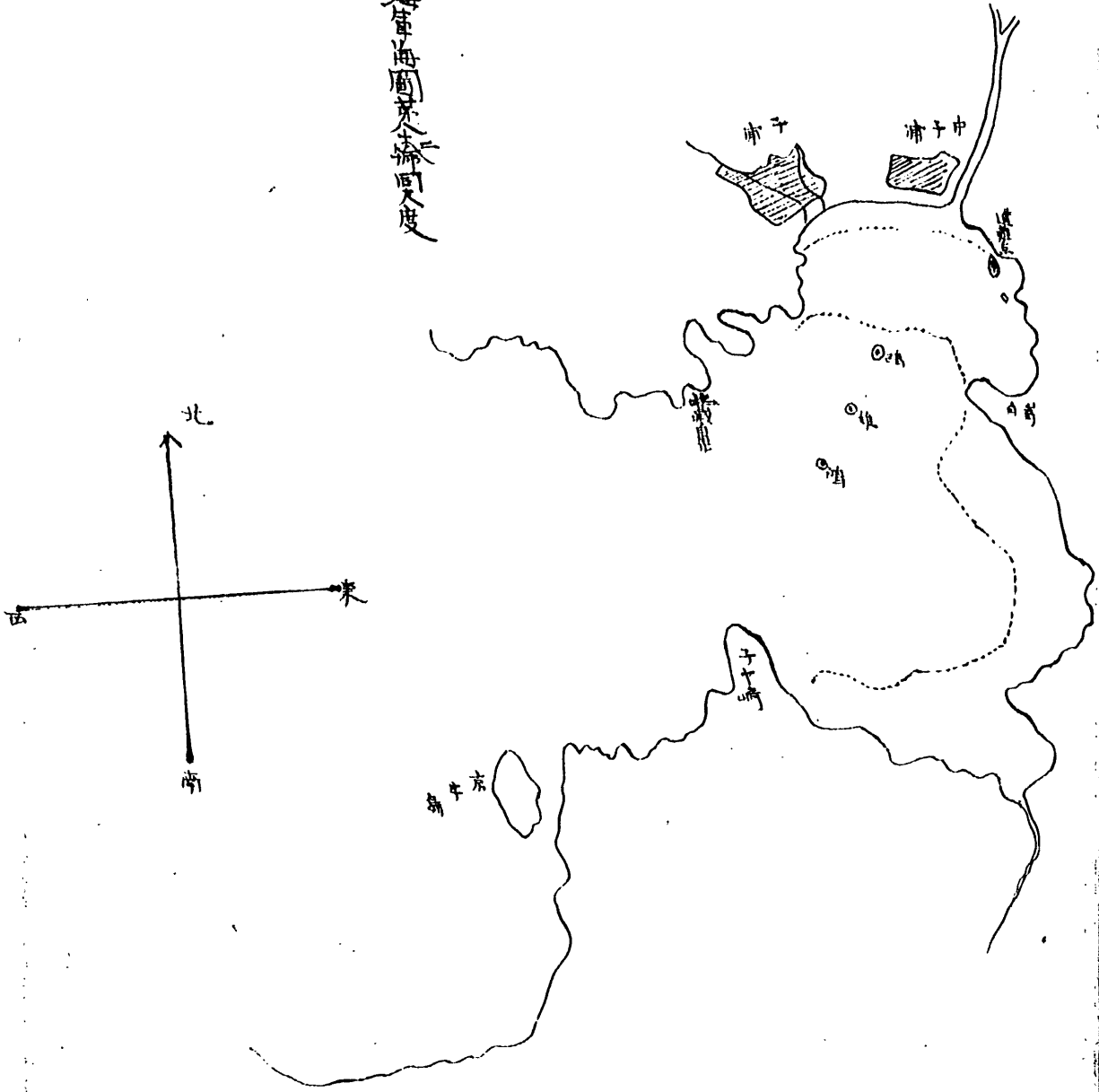
0645



0646



海軍海圖院蔵天保同文度



0647



九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	百
力	文	イ	フ	ニ				帆	工	部	
艦	會	3	30								

0648

至急

部局名	接受月日	發送月日
大臣官房		三月十日
軍務局		三月十日
人事局		
醫務局		
經理局		
司法局		
艦政本部		
教育本部		
臨時建築部		
水路部		
軍令部		

0649

# 電 報 着 信 紙

局 着		局 發					名氏所居人信受																	
取扱者	受信	付午後	付午後	第	コウ	<div style="font-size: 2em; text-align: center;">ア イ シ</div>																		
一三	七時五分	あ	あ	三月廿一日	四四			局	報															
		字	分	日	號	局	報																	
		定 指					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">番着</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">紙數</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">名氏所居人信發</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一</td> <td style="text-align: center;">第</td> <td colspan="2" rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">二</td> <td style="text-align: center;">三</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">三</td> <td style="text-align: center;">號</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">印附日信着</td> </tr> </table>		番着	紙數	名氏所居人信發		一	第			二	三	三	號			印附日信着	
番着	紙數	名氏所居人信發																						
一	第																							
二	三																							
三	號																							
		印附日信着																						
一	二	三	四	五	六	七			八	九	十													
ハ	又	マ	ユ	タ	ハ	ニ			セ	ゲ	ハ													
エ	ツ	モ	エ	ハ	イ	ハ			ニ	ゲ	ハ													
イ	ハ	エ	ハ	イ	ハ	ニ			セ	ゲ	ハ													
又	ツ	モ	エ	ハ	イ	ハ	ニ	ゲ	ハ															
ス	グ	ハ	イ	ハ	ニ	セ	ゲ	ハ	ハ															
ニ	ス	グ	ハ	イ	ハ	ニ	セ	ゲ	ハ															
エ	ツ	モ	エ	ハ	イ	ハ	ニ	ゲ	ハ															
ハ	ツ	モ	エ	ハ	イ	ハ	ニ	ゲ	ハ															
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十															
百	十九	十八	十七	十六	十五	十四	卅	廿	十															

0650

軍令部  
檢

軍務局

經本部  
檢

供覽  
檢

水

二十二年三月三日  
午後七時  
伊藤  
局發  
本省着

海  
三月三日

受信者 大臣  
伊之艇隊司令

電報譯

前艦室外有役修理海兵官室  
外者伊之回帆布修理ヲ為之浸水  
殆ト止ム

局員

小林  
田

田

船谷納

3・31

0651



紙用記筆話電府守鎮賀須横

電

明治四十二年三月三十一日午後二時二十分受

海軍省

行動海軍

只今鳴水雷團工在電報  
到着シマシタ明日午後下田ニ向  
發

山梨秘書官殿

山口參謀

各班

3-31

0653





手之紙  
海



電報

明治四二年三月十八日

午前七時五分

竹敷

局局  
着發



同日依其係美眉

海

三九

受信者 大臣

發信者 竹敷要港部

軍務局

艦政本部

軍令部

今日三十日 艦政本部 高力運轉中  
推進器軸折レ推進器亡失 震動  
為後部、ハリハトシ弛ニ及シテ漏水ス  
ハ電カリ取敢ヘズ報告ス、三月十三日  
出案外見上呈状十カワリシモナリ

第三班  
第二班  
第一班

船務所

監會

3-19

0655

電報着信紙

局着		局			發		名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	付午後	第	局	報	電報着信紙 第參拾壹號 〇八	
	時分	字	日	號				
指		定			事		記	
番着		數紙		名氏所居人信發		第參拾壹號		
印附日信着								

電報着信紙  
 第參拾壹號  
 〇八  
 電報着信紙  
 第參拾壹號  
 〇八

0656



軍令部

経政本部

局

五



第三班



船谷納

電報

明治四十二年

三月

十八日

午後八時

十五分

海軍省

海軍

三九

會

19

受信者 海軍省

発信者 三平 亨 少佐

三平 亨 少佐 本日高力運轉中

スクリューシャフト折シテスクリューラ失ヒ

動力停止スリバツトシテ竣工シテ

ありス



0657

3-19



電報送達紙

局著		局		發		名氏所居人信受	
受信者 當務者	受信 局	受信 局	第一	報	局	<p>電報送達紙</p>	
時	分	日	號	報	局		
時	分	日	號	報	局		
<p>電報送達紙</p>						定指	
<p>電報送達紙</p>						專記	
<p>電報送達紙</p>						<p>注意</p> <p>他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋に記し之を配達したる電信用所へ送らねばならぬ</p>	
<p>電報送達紙</p>						<p>名氏所居人信發</p> <p>電報送達紙</p>	
<p>電報送達紙</p>						<p>附日局發</p>	

0658 製局刷印月四年十四治明





人  
紙

信

電  
報

供  
電

九

局	着	局	發	名氏所居人信受	
受 信	受 付 午 後	受 付 午 後	第 九 局	月	日
受 信	受 付 午 後	受 付 午 後	第 九 局	月	日
受 信	受 付 午 後	受 付 午 後	第 九 局	月	日

長  
 平塚  
 野崎  
 内田  
 行動簿濟

番 信	數 紙	名氏所居人信發
第 四 拾 號		
印 附 日 信 着		

0659





100

100

100

100

100

0662



保第一三六四號三

昭和十二年四月一日

東京市立女子学校校長

海軍大臣東郷平八郎閣下

中雷艇隊之要スル件

查中雷艇隊之要スルハ暴ノ詳細及報告並  
ハ其後急務トシテ廻訪至又十年ニ至  
リ又ハ其後急務トシテ廻訪至又十年ニ至  
ハ其後急務トシテ廻訪至又十年ニ至  
ハ其後急務トシテ廻訪至又十年ニ至



0663



重



軍務局

第三第四部  
會計課

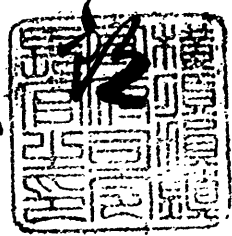
横濱機密第一八四號ノ二一

明治四十三年四月二日

横濱賀賀守府夏長官代理

海軍少将北吉賀行

海軍大臣田中義典高野 實郎



本件 鷗栖岸報告送達一件  
古進 送達  
本件 鷗栖岸報告送達一件  
古進 送達

追進 本件 鷗栖岸報告送達一件  
古進 送達

特種



小林



海軍

北



軍務局  
四月六日

艦 四



二 艦機室 第十六号之三

明治四十三年三月廿九日

第三艦隊司令長官 鈴木 次郎

横濱海軍造船所 長官 佐藤

海軍少将 北条 采女 謹啟

第三艦隊 碼頭 桟橋 報告

一 船体及艦装

三月廿五日 桟橋 前室 下右舷 舷二 裂

孔一

前部司令塔 前方よりカビツト直下ニ至ル 右舷側  
艇底ニ裂孔五 其他リハツト、地盤敷カ所 上

甲板板凸凹部ニテ所、艇上器具、錨鎖ニ破

損ヲ生シタルニ付、修理ヲ要ス

(2) 櫓岸ノ海ノ兵員室、前庭室、全部浸水ニ付、

室、全部艇上修理ヲ要ス

此他、浪ノ有リ、支柱綱、及其他小艇等、沈

没ヲ要ス

一 兵装

櫓岸、引卸ノ際、前部浮力ヲ失フ為メ、探

照燈、山内三所砲ニ付、移動ニ付、運搬

取付ヲ要ス

探照燈、白熱燈、電燈、破損ニ付、修理ヲ要ス

六所砲、用回螺、畧外、敷席七失ニ付、新設

ヲ要ス

一機園

前走二時海水ニ洗ハシクニ洗濯ノ上傳用  
出来得ル見込

右走異状ナシ目下傳用中

主機及補機亦異状ナシ要スルニ獨力ニテ  
回航出来得ルヲ認ム

第三艇隊鴻防時現狀報告

一艇隊及艇裝

三月廿五日高良港ニ於テ風浪ニ遭遇セル際  
兩艇觸鋭切断上橋、エンジンカビツト支  
台等破損ト修理ヲ要ス

第三艦隊艦隊時現狀報告

海軍

一 船体及艇装

三月二十五日、東京、長崎、三宅、石川、國浪、遠海、セ

際、左舷、船體、切斷、修理、要、

右報告云

(終)

0669

水 電

艦政本部

第四部  
第三課  
會議課

21  
27  
部  
卷

一四一

明治三十二年四月六日

海軍大臣男爵齋藤實殿

海軍大臣男爵齋藤實殿

第十一艇隊第三十號水雷艇推進機

機部報告

但前呈之各機推進機拾得。付推進軸打

損原因取調方佐世保鎮守府司令長官

依頼中

右進達不

別紙指示

各班

海

軍

終

今官印

0670

三 四



明治四十二年三月二十日

第三十号艇長 柴 勇 乘

第十三艇隊司令 柴 勇 二 殿

推進軸折損推進器七失報告一件

明治四十二年三月十八日午前九時高力運転施行、為佐世保  
出港漸次機関回転増し十時高力運転多始、因端ト半  
々首周、艦船運力試験標ニテ、運力ヲ驗シ、第一回試験於  
テ運力十八節ニテ、得尚半回轉數三百ヲ以テ運轉ヲ繼續シ、  
半々首方面ヲ第二回運力試験ヲ行ヒ、既ニ第三回試験終

0671

リモ未夕運轉時間、餘裕アルヲ以テ尚右航行ヲ繼續シ居リ  
 二十時五分、俄然艇体ニ甚シキ震動ヲ感シ、作カモ材等ヲ  
 超越シタルガ如キ感ヲ覺ヘ、艇ハ只隋カヲ以テ進行スルニ止ル  
 テ進行ノ停止ト共ニ投錨ヲ布シ、兵員ヲシテ潜水艇底ヲ検査ス  
 ンガシタルニ、艇底塗具ノ剥落シタル部等、更ニ魚ク推進軸ノ折損  
 ト共ニ推進器ノ七失セルヲ發見シ、尚右艇内艇底異状、有無ヲ  
 検査シタル後、部艦庫ト下士室トノ隔壁ノ部ニ於テニ三「リ」  
 也ニシタルモノアリテ、サレテ浸水スルヲ認メ、幸ニ碇泊位置向後  
 埼ニ近キヲ以テ、信号ヲナシ、突如船ヲ請求シ、港務部ノ援助依リ  
 午位ニ時佐世保港内ニ繫留セリ、機関部ニ於テ、推進軸ノ折損  
 後、甚キキ回轉ヲナセシヲ以テ、直ニ汽機運轉ヲ停止シ、蒸汽暴

0672

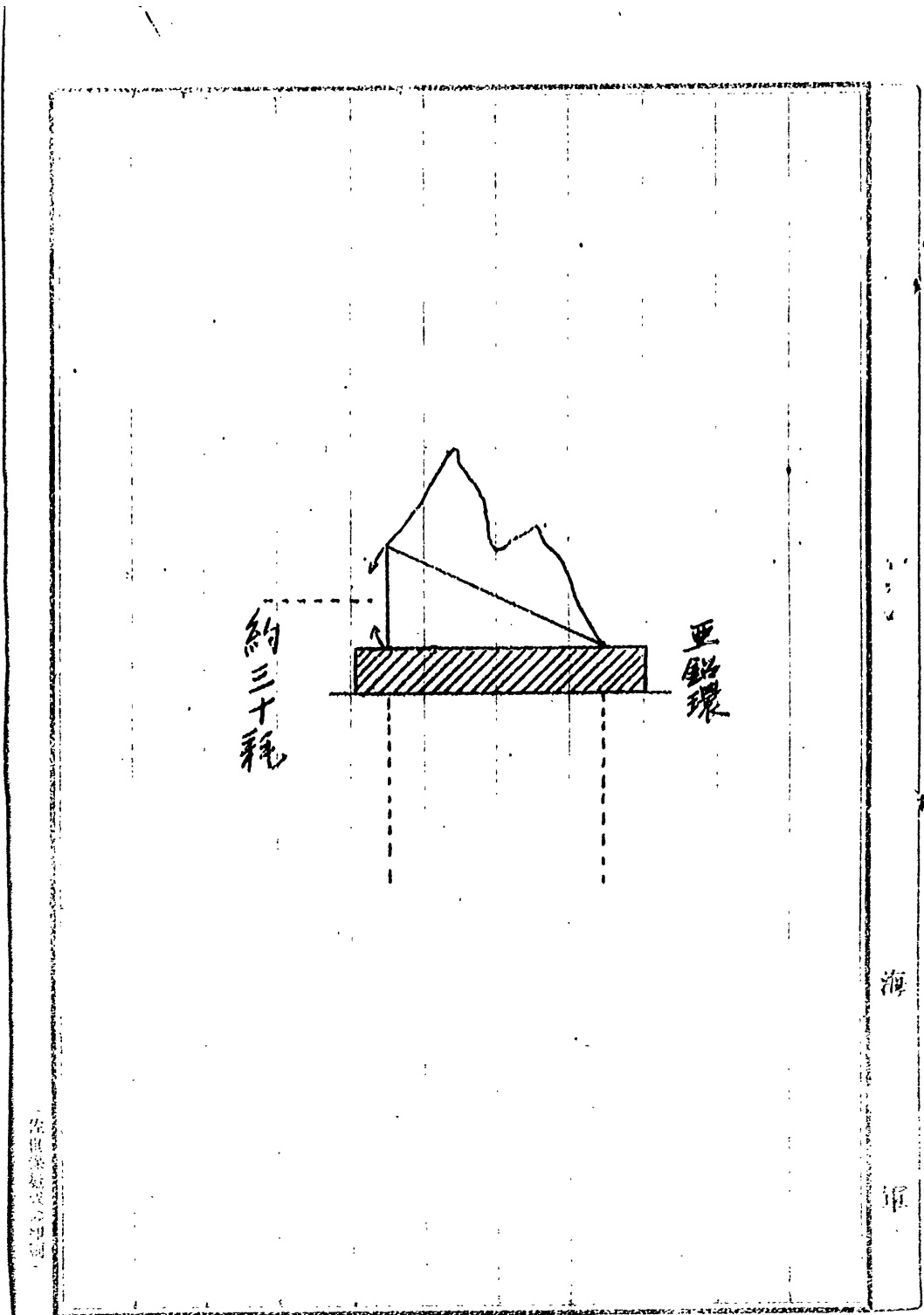
騰ヲ防グノ旨ニ取リ其臨機處置ニ就テハ頗ル敏捷ナリシ事  
 時天候晴北東ノ微風ニシテ故ニトテ正横ヲ来リ艇俵ノ動  
 揺ヲ予カ知シ事ヲ流楫流鑑ノ状態頗ル良態ニシテ流力百八  
 十所回転數三百ニシテ第一面ノ速力試験ニ於テ第一面速力ト  
 異ナラズ元素本艇ノ推進軸ハ本艇製造者初ノ者ニシテ既ニ  
 九年ノ月ヲ経過シ量表ニ明記三七六年六月二日腐蝕ノタリ燒  
 蝕修理ヲ施シ三十二年五月廿七日第一面ノ艇ノ運轉自由ヲ失ヒ  
 タル際本艇ノ任トシ其際突ノ索ニ使用セシ鎖鎖ヲ二回捲回シ  
 タル後運轉ヲナシ其後検査ノ際長サ三十尺深サ二五尺現狀ニ  
 摩耗純シタリ後々層々入渠ノ際検査セシニ次第々其深サヲ増シ  
 去ル三月十五日出渠ノ際ハ既ニ四五尺現狀ヲナシテ腐蝕ノ痕アリ

0673

折損ノ原因ハ入渠検査ノ上非ザレバ判明セザルモ折損部ハ推  
 進器取付根ニシテ折損部形状尤面如ク船陽ニハ他ノ故障  
 ヲ認メタル船ノ前方ニシテ釣中果テ重具剥落ニ所ナク推進  
 器墜落ノ際船トシテ者ナラン浸水箇所ハ頗ル輕微トシテ憂  
 ヒ事ナク存目ニ於テハ強ド浸水セザルモ感アリ有ニ依テ直  
 作世保工廠ニ修理請求セリ其工廠ノ検査ヲ受ケタルニヤフト  
 新製ニ一月以上ヲ要スル見込ニシテヤフトノ完成ニ至ル迄ハ入渠  
 ノ運ビニ至ラザレバト目下尚修業中其後屢々浸水量ヲ檢スル  
 強シト浸水セザルカ如シ  
 右報告ス

(2/2)

0674



0675

ちよ

電

供臨見



軍務局

艦政本部

軍令部

長



各班



船谷納

五月七

日午後六時二分  
日午後七時十五分

發信者

佐鎮副長

ちよ

受信者 大臣

電報譯

五十号水雷艇伊萬里ミ岩礁ニ觸レスクリエー  
ガード及シヤフトヲ曲ゲタルモノ、知シ只今入港損害  
程度ハ入渠取調ノ上報告ス

局員



小林



海

五月八日

0676



海

九

大正機密第七四號

明治四十二年五月二十四日

大藏省海軍部官制

海軍大臣男西園寺公望

觸礁觸接等件

近時頻々第四駆逐隊於此觸礁觸接等

報告之進達スルノ貴憾トス

第四駆逐隊司令松岡修藏報告一紙添付



司法局

軍務局

軍令部

之丈

名古屋民四納

0678

軍令部	水路部	臨時建築部	教育本部	經政本部	司法局	經理局	醫務局	人事局	軍務局	大臣官房	部局名
-----	-----	-------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----



之尺

八等ノ

0678

部局名	接受月日	發送月日
大臣官房	五、三	五、廿八
軍務局	五、三	五、廿八
人事局		
醫務局		
經理局		
司法局	五、三一	六、二
艦政本部		
教育本部		
臨時建築部		
水路部		
軍令部	六、二	六、九

0679

寫

四驅機密第八四號

明治四十二年五月二十日

第四驅逐隊司令松岡修藏

大湊要港部司令官玉利毅賢殿

曉雷艇接始末報告ノ件

明治四十二年五月十九日陸奥海灣内ニ於テ夜中緋隊水雷  
 艇射ヲ施行セントスル目的ヲ以テ午後三時亦賊ハ曉雷艇電  
 ヲ牽レ宇田ヨ出港シ日没前標的及航路浮標ノ設置ヲ  
 終リ午後九時零分曉雷艇電ノ順序ヲ以テ十二海里ノ速力  
 ヲ以テ緋隊ニテ航行シ靜的向第一回ノ水雷艇射ヲ終リ  
 第二回、於テ第一回ト全方位ヲ以テ午後十時零分ニ施行セ  
 シ此艇射ニ於テ曉及曙ノ水雷ハ前回比シ緋斜大ナリシカ如

海

軍

0680

ク見受ラレタリモ前回大標高者ト思考セル位置ニ至ル迄各駆逐艦、自由行動ヲ許サス（第二回索射、於テ雷ハ水雷故障爲索射行ハスニ番艦ノ位置ニテ續行セリ）午後十時五分頃解列ヲ命レ各駆逐艦、水雷採收ヲ爲サレタリ茲ニ於テ艦ハ解列レ一度ヒ浮出セル水雷ニ接近セシモ自己ノ水雷ニアラサルヲ察見シテ以テ再ヒ雷ノ前方、見ル水雷ニ向テ半速カニ行進レ停止ノ有様ニ見雷ノ後部ヲ通過セントセル際隨力ノ爲メ後進レ居レル雷ノ右舷艦尾、艦及右舷機推進器各異一枚ト艦ノ左舷厨房室外銃部ト撞過シ兩駆逐艦共多少ノ損害ヲ生レ修理工場ノ手ヲ以テ修理ヲ要スルに至ラレタリ

大報告ス

（列隊標的設置圖及編隊航跡圖是曉、雷兩駆逐艦長提也報告書様式）



寫

曉機密第三七號

明治四十一年五月二十日

曉駝逐艇長 堀

當

第四駝逐隊司令松岡作藏殿

曉艇接損害報告ノ件

明治四十一年五月十九日午後十時十五分本隊吉森清中ノ浮中沖  
 ニ於テ夜中編隊水雷艇射施行中第二田泰射<sup>終</sup>解列ノ命ヲ  
 受テ浮上セル本艇魚形水雷艇得ノ為メ單獨北東ニ北<sup>終</sup>速力  
 九湮ヲ以テ航行中九艇艇首ニ突ノ方位ニ當リ駝逐艇雷  
 ノ漂伯<sup>速力信號燈掲揚</sup>セルヲ認メタルヲ以テ其艇尾約五十米ヲ  
 離レ航過セント決心シ<sup>アサリレテ漂伯ト認ム</sup>結<sup>セ</sup>航ミツアリルニ當時艇橋ニアリセル本隊  
 司令ノ活字「稍ヤ雷」近キヲ以テ尚ホ離レレトノ命ニ依リ尚ホ面舵十五

母 庫

0683

度ヲ命レ續航シタルニモ拘ラス雷ヲ左舷正横ニ見ルヘキ想像  
 距離依然妻更ヤルノミカ寧テ短縮スルノ感アリテ面船一杯  
 フ命レ其時ニテ航床セリ令レリ刹那、初メテ漂泊ト認メらん雷ハ  
 右進シツアムヲ希見シ著シク近距離ニ接近シ来リ既ニ雷ノ船  
 尾ハ本船左舷中央正横距離ニ於テ約ニ十五米トナリシツア  
 其時航接ヲ避ケンガ為本船航尾ヲ右方ニ振ラシテ取航  
 一杯ヲ令レタルニ雷、右進ハ尚ホ止マラス本船後部所ナ航  
 側ト雷、航尾ト航接ヲ航側外致長サ約ニ九五米、幅(上下高  
 サ)意味ス)約ニ四〇〇米、大サニテ深サ約四十容ノ凹所ヲ生シ航  
 水際ケ金物ニ個ト航硝子板一個外致釘九個ヲ毀損スル  
 事リ(附圖添付)

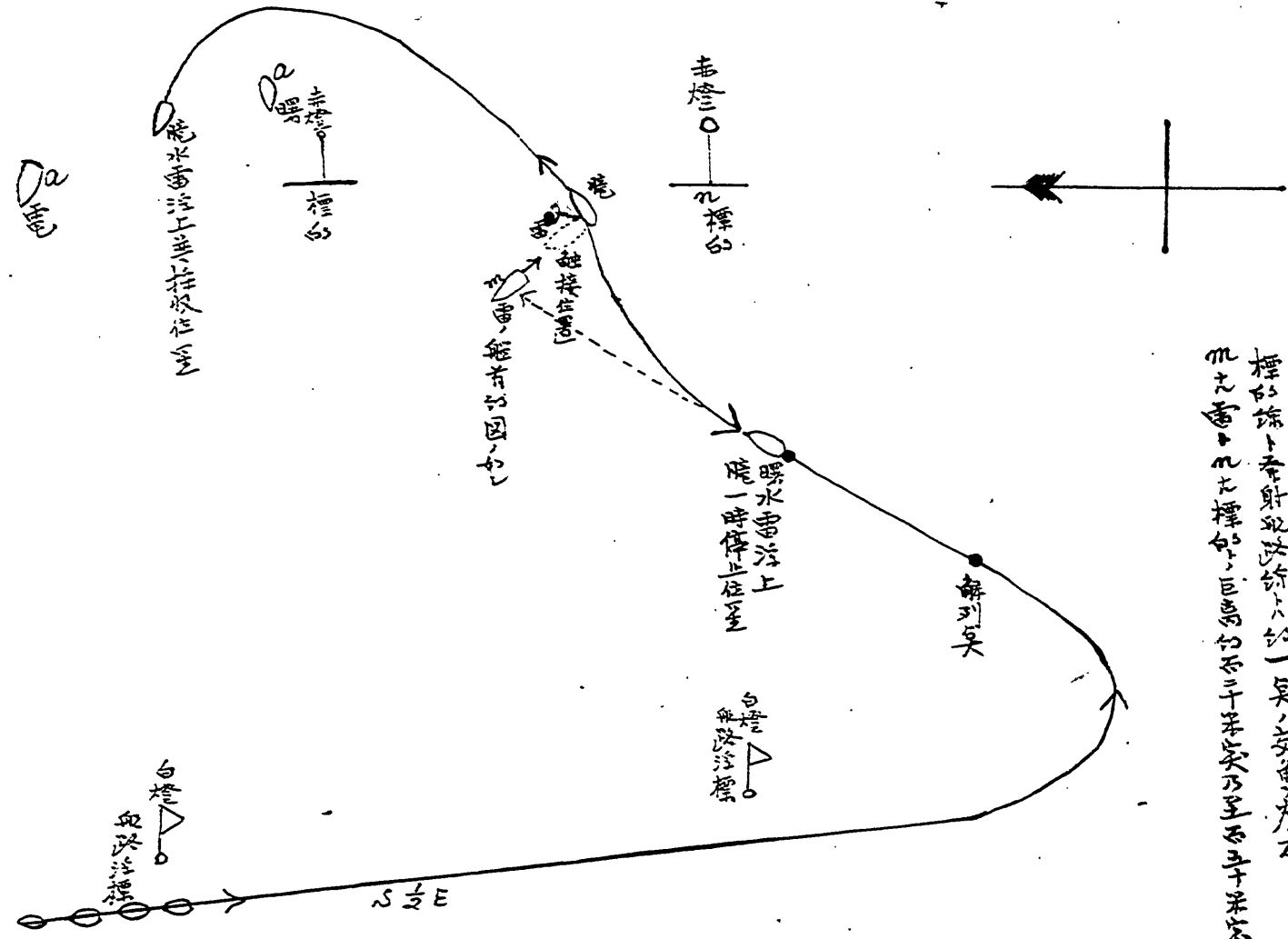
右報告ス

終

0684

0685 時電能接音在、於之航路圖

○：能接音在、於之航路圖  
 標の諸ノ音聲ノ外、餘ノ音聲ノ一ノ音、於之航路圖ノ  
 凡ノ音、於之航路圖ノ音聲ノ外、餘ノ音聲ノ一ノ音、於之航路圖ノ



雷第一一五號

明治四十三年五月二十日

雷驅逐艦長 井戸 玖吾

第四驅逐隊司令 松岡 休藏 殿

驅逐艦 曉 雷 衝 觸 現 狀 報 告 件

本艦明治四十三年五月十九日編隊夜中水雷奔射中午後  
十時十四分艦尾に於て曉、尤艦側ト衝觸セリ當時状況左  
如レ

當夜第二回奔射ヲ終リ接收ノ為メ解列後本艦ハ適宜  
ノ針路ヲ取り半速力ニテ標的ノ附近ニ到午後十時五分汽機  
ノ運転ヲ停止スル十時十分曙吾カ右舷前方より本艦ノ  
前面(夜間目測巨島約百米)ニ停止セシメテ其近接ヲ以レ

母

直

0686

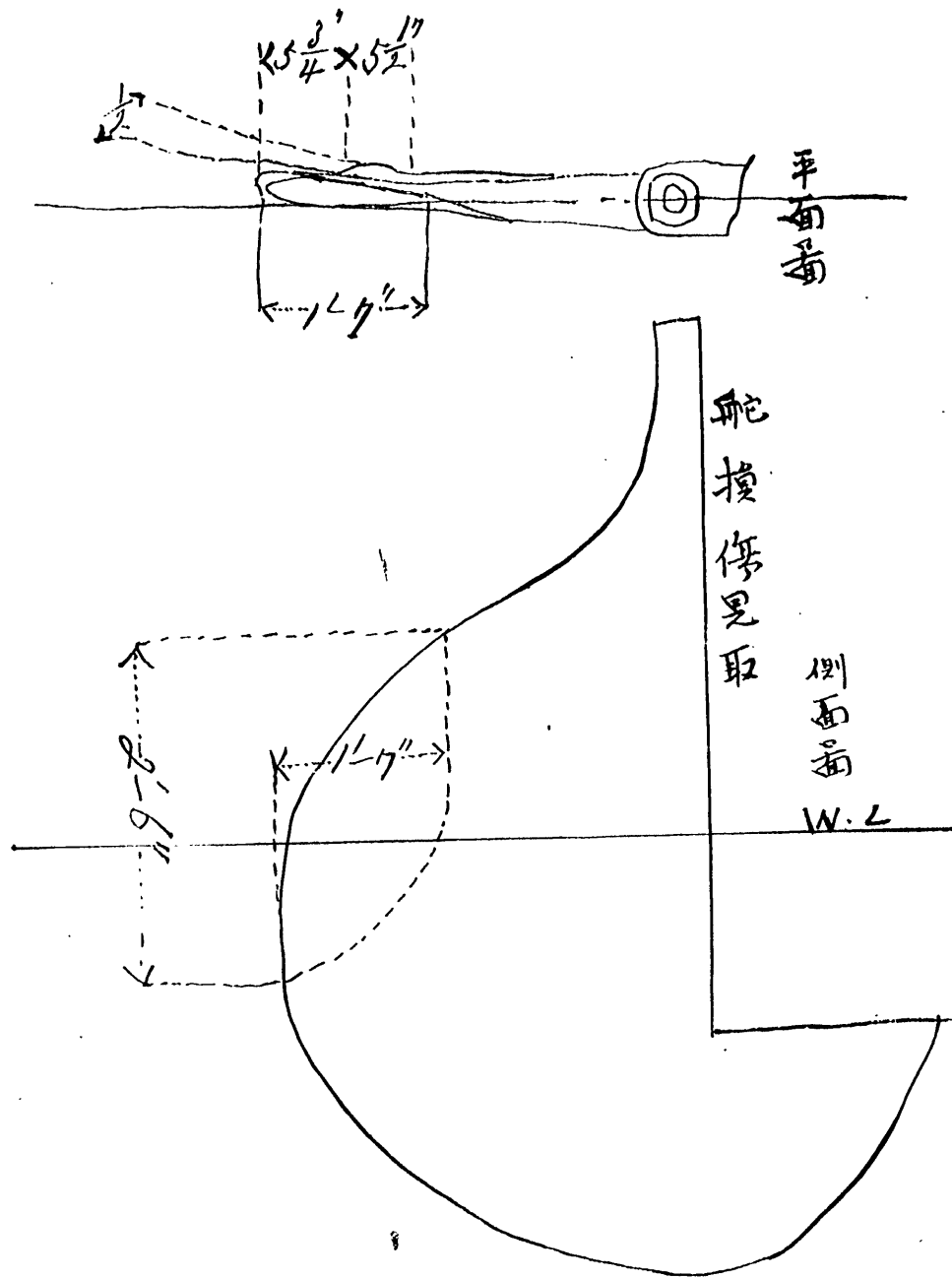


右艦機不達 尤艦機半速、右前進ヲ止ルカ 艦ヲ后退シツ、  
 尤方ニ交ハサトス然レモ右艦艦尾約ニ矣(夜間目測 巨砲内約ニヨリ采  
 ニ他ノ水雷標的有レシ以テ十時十分汽機ヲ停止レヨリ艦尾ノ  
 前記標的ニ近寄ルヲ防カンカ爲メ 取艦ニノ度ヲ取リテ強クトキ  
 時尤艦艦尾約四矣ノ方向ニ斜ニ甚前進シ来レ陸ヲ認メテ以テ突  
 撃面艦機前進半速ヲ命ス時ニ十時十分ナリ(此時右艦ハテララフニ  
 附キテテララフハ半速トキ速ヲ換肩セヨリテ實際 テララフハ左艦  
 機半速ナリトシ 似ス右艦ハ半速ナリレ事ヲ後ニ於テ知レリ) 艦ハ右艦ニノ度  
 ノ供ナリキ而シテ其前進抵抗力未ダ顕レサニ先々十時十分ヨリ十分  
 間ニ於テ衝觸ツルニ至リ十時十分汽機ヲ停止ス 艦衝音時  
 本艦首ハ北ハ東ナリキ

別命破投ノ箇所附記

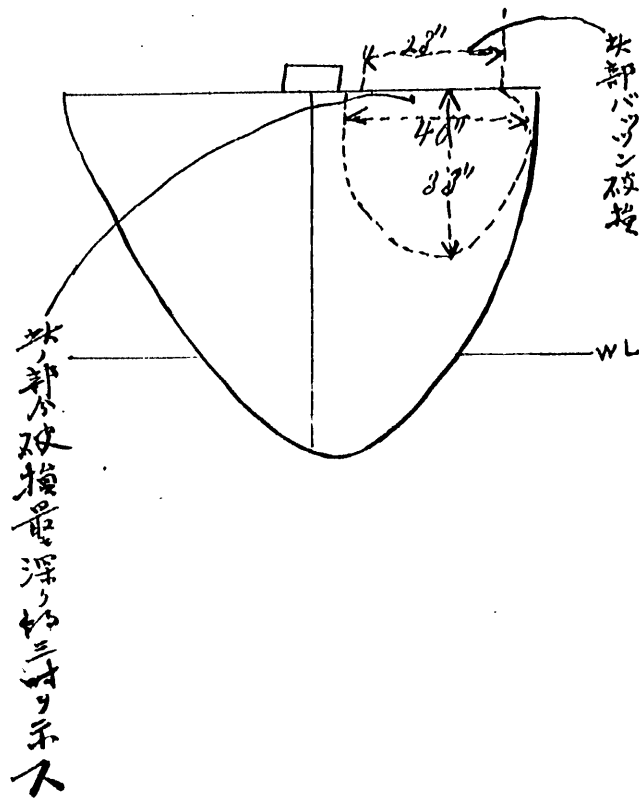
大報告ス

終

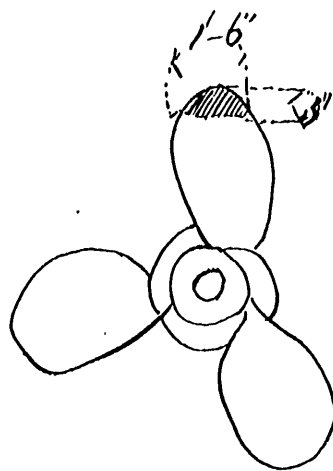


0688

（船の横傷見取図）



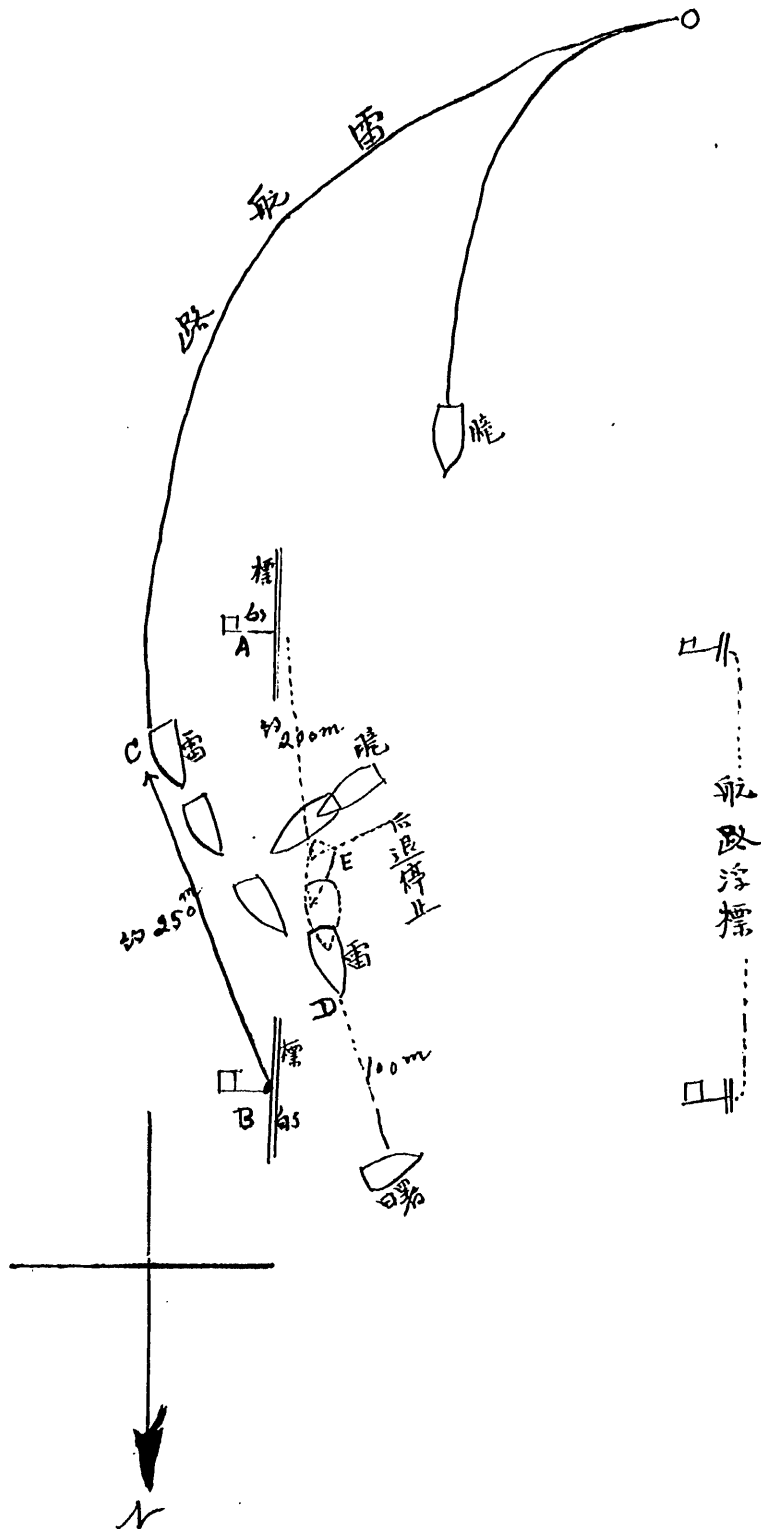
0689



影線部係曲(印度水産)

0690

雷航跡圖



0691

面解

一、A、B 標的ノ紅燈ヲテ其巨島ハ本船ヲBノ標的ヲ入ル時ニ  
 達シテ追入ル其面船廿度半速トナセシニAヲ左舷正横ニ見ル  
 時ニ其巨島約二〇〇米ナリ故A、B 間ハ線定(四〇〇米)ヨリ短  
 縮シ約三〇〇ノナリシランカ

二、C 附近ニテ汽機ヲ止メ(其時Bヲ左舷船三ノ約ニ五〇米ナリ  
 ヲリ)之レヨリ慥カト転舵トシテD 附近ニ進出セリ

Dニ達スル前其カ四方右ヨリ来ル(嗚ヲ認メテ故尔後左舷ノ鐘  
 慮シDニテハ(嗚トノ距離約一〇〇米ニ及ヒテ故尔退ス其時嗚ト

雷トハ雷ノ首尾線ヲ以テ嗚ニ直交セシ故其カ船ヲ嗚ノ船方ニ  
 開キテ右退セリ(其カ右汽機ハ右半右半ヲ用ヒタリ)其ノ右退中

右舷船ニ其約二〇〇米ニA之紅燈ヲ認メテ故汽機ヲ止ム而シテ船ヲ  
 取舵ニ〇度ニ(嗚カ右退中船ノAニ近カコンヲ辨ケントセリ)

一頁 二頁

一其船ハ接触前直ッ命セシ時ニ尖スベツ志レ居リシ  
 止ト転船ヲ命セシ二十度ノ転船ヲ終ンマテハ晴ノ近接ハ氣付カ  
 サレシ其氣附キハ転船ノ終リシ迄ト其時ニテ晴ノ巨離ハ既  
 陸ニシフコトヲ知リシノミ 同洲ノ全船ナカリレモ後コト追想セハ船  
 リ五ノ采前後ナリシラン  
 EコトAハ不明ナレトモ台退中Aヲ認テ停止ヲ命セシ時約二〇ノナリレ  
 故一五ノ内外ナラシナランカ

(陸)

0693

水

供

電

艦務部

第三部  
第四部  
會計課

軍務局

軍令部

陸軍省 第三局

明治四十二年六月一日

陸軍省 長官印

海軍大臣 勇將 藤原 實殿

五十二号水雷艇觸礁損傷件

五十二号艇伊万里、於觸礁、義本月七日電報

以下報告致置美處右損傷程度、別常通

右報告不

右報告不

別常葉添

軍務局 六月九日

長官印

艦會 6-6

艦四 7

艦三 7

0694

本艦



軍

通報

艦會  
6-6

印

月九日

四  
艦  
7



0694



本艦修理五月五日迄之  
艦長官宮田中尉に呈請  
台通片を存候事



0695

第五号水雷艇損傷程度

明治四十三年五月十日、漂損傷部ヲ検査セシニ、スクリエ

ーガード、甚シク左舷側ニ屈曲シ、推進器一羽、又屈曲セリ

由テ直ニ修理ニ着手シ、推進軸ヲ拔出シ、検査セシニ、屈曲ヲ認

メズ、不取敢豫備推進器ヲ装置シ、敷損推進器ニ屈曲部ヲ

修理シテ豫備トシ、スクリエーガードニ取外シ、上修理ヲ加フ

其他ニ船体機関艙礎ノ為メ、受テ先損傷部無シ、五月

十日修理竣工出港

造船部 工費拾五圓 材料拾五圓 計四拾五圓

造機部 工費拾五圓 材料拾五圓 計八拾五圓